

# 人々がメジャースポーツに魅力を感じる共通点

～メディアを利用して水泳はよりメジャーになれるのか～

## What attracts people to major sports? Can be swimming become a major sport by using media?

1K10C224 杉山 雄祐

主査 リー・トンプソン 先生 副査 寒川恒夫 先生

### 【目的】

近年、日本のスポーツ熱は日々高まりを見せている。しかし、現在スポーツは数多くの種類があるが、人々に愛されているスポーツは偏っているのではないだろうかと感じる。

そこで現在、決してメジャーでない水泳をよりメジャーにしていく方法を考えていきたい。マクロミルと三菱UFJリサーチ&コンサルティングによって行われた「スポーツマーケティング基礎調査」によると、「最も好きなスポーツランキング」においては、水泳は圏外であったものの、「2020年東京五輪で関心のある競技」の調査で水泳は全回答者のうち45.5%が「関心がある」と答え、そのパーセンテージは、他競技を抑え、1位になっている。

また、オーストラリアのグリフィス大学の研究により、水泳を行うことで、視覚運動能力が高まり、それにより数学関連の成績は高い数値が出るということが分かった。

これら2つのことから水泳は潜在的な高い注目度を持っていると言える。そのような水泳をよりメジャーにする方法を考察していく。

### 【方法】

野球、サッカー、水泳の各世界大会における新聞記事をコーディング調査する(野球・サッカーは比較対象とする)。

分析の調査対象は読売新聞とする(日本で一番発行部数が多いため)。また調査期間は各世界大会(野球:ワールド・ベースボール・クラシック、サッカー:ワールド・カップ、水泳:世界水泳選手権)の大会期間中で、調査対象とする記事は見出し記事に各世界大会の正式名称、または略称を含んでいるものとした。

この調査でいわゆるメジャー競技である野球とサッカー、水泳の表象のされ方を探ることによって、メディアにおける表象方法の相違点を見出す。そしてその結果によってどのようなことを今後、どのようなことを行うことができるのかについて推論・考察を進めていく。

### 【結果】

調査の結果、水泳は他の2競技と比べ、記事数が少ない、外国人選手の記事が少ない、結果の記事が中心、個人の記事が多く、チームの記事が少ないということが分かった。逆に野球とサッカーは記事数が多い、外国チームの記事も多い、結果以外の練習などに関する記事も多い、チーム主体の記事であることが分かった。

### 【考察】

水泳は上記の4つの特徴を野球、サッカーに近づけることができればよりメジャーなスポーツになれるのではないだろうか。

よってスポーツ面以外にも取り上げってもらうため、結果に応じて、百貨店や小売店などで「セール」を行ってもらう、水泳のマスターズ競技者人口が多いことを利用し、外国人選手のテクニックを紹介するテレビ番組、新聞記事を制作する、ヒーロー性を高めたメディアを人々に提供する、チームとしてのまとまりを見せるため、日本代表選手たちが、チームとしてまとまっていることをメディアに証明していく(現在、書籍を一冊出版済み)などを行うことが有効であると考えた。

2020年までにこれらを少しずつ進めていくことによって、水泳をよりメジャーにすることができれば、日本国民は、健康で、強く、賢い国民になることができるだろう。

#### 「東京五輪で気になる競技」

1位:水泳	45.5%
2位:体操	40.5%
3位:マラソン	37.8%
4位:サッカー	32.6%
5位:柔道	26.2%

表1 2020年東京五輪で関心のある競技

(スポーツマーケティング基礎調査)